

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公表番号】特表2005-538719(P2005-538719A)

【公表日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2005-050

【出願番号】特願2004-536265(P2004-536265)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 9/12 (2006.01)

C 1 2 N 9/96 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 9/12

C 1 2 N 9/96

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 Q 1/68 Z

C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月15日(2006.9.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、50 で、40 で合成される量の少なくとも50%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

(a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52；

(b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64；

(c)M-MLV逆転写酵素のリジン152；

(d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204；

(e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289；

(f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306；および

(g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項2】

40 で合成される量の少なくとも70%の全長cDNAを50 で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項 3】

40 で合成される量の少なくとも80%の全長cDNAを50 で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項 4】

40 で合成される量の少なくとも90%の全長cDNAを50 で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項 5】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項 6】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、52.5 で、40 で合成される量の少なくとも20%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

- (a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52；
- (b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64；
- (c)M-MLV逆転写酵素のリジン152；
- (d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204；
- (e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289；
- (f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306；および
- (g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項 7】

40 で合成される量の少なくとも40%の全長cDNAを52.5 で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項 8】

40 で合成される量の少なくとも50%の全長cDNAを52.5 で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項 9】

40 で合成される量の少なくとも60%の全長cDNAを52.5 で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項 10】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項 11】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、55 で、40 で合成される量の少なくとも1%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

- (a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52；
- (b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64；
- (c)M-MLV逆転写酵素のリジン152；
- (d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204；
- (e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289；
- (f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306；および
- (g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項 12】

40 で合成される量の少なくとも5%の全長cDNAを55 で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項 13】

40 で合成される量の少なくとも10%の全長cDNAを55 で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項 14】

40 で合成される量の少なくとも20%の全長cDNAを55 で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項 15】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項11記載の逆転写酵素。